

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
学習指導 学校・学級作り	学級の状態や生徒の実態を把握し、理想の学校、理想の学級作り、独自の学習方法の活用、授業内容の充実、生徒の学力の保証、充実、伸張 (1)「ハイパーQ-U」各学年2～3回実施し、学級集団や生徒一人ひとりの状況を把握し、親和的な学級集団を育成 (2)生徒による授業改善アンケート年2回実施、授業改善を図り、授業の質の向上 (3)先進的な取組を行っている高校の実態把握、指導方法の工夫、学年間情報連携等の推進、学力向上のための戦略等の研究 (4)教科会の充実と教科・科目指導計画の進捗状況調査の実施	・「ハイパーQ-U」を1・2学年は3回、3学年は2回実施し、ほとんどの学級が満足型 ・授業改善アンケートの項目を検討改善し、授業改善アンケートを2回実施。アンケート項目間の相関関係の検討「授業を受けて学力が向上した」79%(1回目)→80.2%(2回目) ・学力向上戦略会議を12回以上実施、情報連携を図る。学年修了時の校外模試で評価予定 ・教科会を年5回以上実施。課題の質・量が生徒の実態にあっているかの調査結果が報告され、改善がみられ概ね達成	・ハイパーQ-Uを実施し、学力向上、いじめや不登校の未然防止にも活用した。ほとんどの学級が満足型ではあるが、学級集団の育成についてさらに教員研修を充実させる必要がある。 ・教員間の授業見学、各種研修への参加により、授業力向上に努めており、高い授業評価になっているが、継続して、生徒の学習意欲を高める取り組みが必要である。 ・学力保証、充実に向けた授業改善のために、授業のねらいや指示をはっきり示し、丁寧な説明をすることで生徒の学力向上につなげる必要がある。また、生徒の進路目標に合わせた課題の質・量を提供し、さらなる学力向上につなげる必要がある。
生徒指導 人権教育	生徒の社会的な資質、能力、態度の育成 個々の生徒の自己指導能力の育成 (1)生徒の進路に関する不安や様々な悩みの把握、いじめや体罰の未然防止や早期発見と対応 (2)ソーシャルスキルトレーニング、エンカウンターの活用により、生徒相互が育ち学び合える集団の育成 (3)生徒同士、教職員・外来者に対する場面に応じた挨拶ができるスキルの習得 三重県人権基本方針に基づいた人権学習の実施 人間のあり方生き方を考え人権意識の向上 (1)関わりのスキル、配慮のスキルの向上 (2)人権LHR各クラス3回以上実施 (3)生徒主体の人権討論会の1回実施	・観察法、調査法、面接法により把握し、スクールカウンセラー、教育相談担当者、養護教諭の連携により生徒の取り巻く環境の改善、心のケアに努め、長期欠席生徒数は昨年度と比べほぼ横ばい(いじめ・体罰は0) ・「ハイパーQ-U」においてほとんどの学級が満足型 ・ソーシャルスキルトレーニングを年3～4回実施 ・生徒主体の挨拶運動について年3週実施 ・人権LHR3回・人権討論会1回実施で一定の成果	・HR担任による生徒全員の個別面談や教育相談担当と保健部、学年団との連携による教育相談体制を継続している。 ・クラスルームソーシャルスキルトレーニングの活用により生徒相互が育ち学び合える集団を目指している。今後は学習意欲向上へのプログラムを考える必要がある。 ・生徒主体の挨拶運動を3週実施し、一定の効果があつたがまだまだ十分ではないので今後も継続していく必要がある。 ・生徒主体の人権教育は本校の強みであるので、核となるリーダーを育て、人権LHR、人権討論会の内容をさらに充実させていく必要がある。

進路指導	生徒の学力を高める指導の充実 多様な学習機会の提供とキャリア教育への接続 (1) 土曜学習会、課外授業（夏期課外講座を含む）を充実させ、個に応じた指導を展開 (2) 生徒・保護者の希望を取り入れた進路検討会議の実施、個に応じた進路指導を組織的に 行い、生徒の学力、適正にあった進路を実現 (3) 「学力向上戦略会議」を定期的に行き、学年間情報連携等を行い、学力向上のための戦略と戦術の研究 (4) 進路指導部と学年による学力検討会議の実施	・土曜学習会 11回、通年・夏期課外授業を含め課外授業を実施し概ね達成 ・進路検討会議 4回（3年）、生徒個別面談、保護者会は達成 ・進路指導主事を座長とする「学力向上戦略会議」を隔週で定期的に行い概ね達成 ・生徒全員が希望する進路実現は未確定 ・各学年で開いている学力検討会議に進路主任が参加し、活性化	・土曜学習会を、定期考査前は希望制、考査後に指名制にして実施し、意識の高い生徒への支援と学習到達目標に達していない生徒への指導ができた。運用については検討の必要がある。 ・個に応じた進路指導を組織的にやり、生徒の学力・適性にあった進路実現に向け、生徒だけではなく、保護者にも最新の進路情報を提供し、支援をしていく必要がある。 ・学力向上戦略会議により、学年間の情報共有、連携を図ることができた。学力向上のためのプログラムを検討・作成し、実践していく必要がある。 ・学力検討会議に進路主任が入ることで各学年での取り組みや課題等を連携して把握し、学力の保障、充実に努める必要がある。
組織力の向上	教育計画や指導方法に関する実質的な議論を可能とし、各委員会の充実や情報交換の活性化 (1) 主任会議や各種委員会の定期的な開催により情報共有 (2) 各校務分掌や部活動の在り方等の改善点の検討と学校経営改善の継続	・主任会議や各種委員会の定期的な開催について概ね達成 ・8月に校務分掌の中間評価を実施、「保護者対応について」の学習会の開催 ・「ハイパーQ-U」においてほとんどの学級が満足型	・ほとんどの委員会が開催できたが、特に企画委員会、学習指導委員会、人権教育推進委員会などは積極的かつ定期的に実施できた。 ・「保護者対応について」の学習会では、教職員同士のコミュニケーションが図られ親和性が高まるため、今後も学習会等を継続する必要がある。
防災教育	防災教育の充実に努め、生徒の安全を確保する (1) 緊急地震速報の活用訓練、津波、火災、地震等を想定した実践的な避難訓練の実施 (2) 地域住民の避難所としての支援訓練	・地震を想定した避難、津波を想定した実践的な避難訓練、消火訓練の実施 ・避難所としての支援訓練は実施できず未達成	・地震を想定したグラウンドへの避難、津波を想定した3階への避難を取り入れて訓練を実施した。また、水消火器を使った消火訓練も実施した。引き続き実際に役立つ訓練をしていく必要がある。 ・避難所としての支援訓練は日程の都合で実施できなかったが、実施していく必要がある。

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	・校長の学校経営の改革方針の実現に向けて、組織として努力・実践しようとする意識が高い。 ・教職員の教科指導や進路指導に対する意識は非常に高く、常に授業改善の取り組み、進路指導研修会などに力を入れている。また、保護者や地域からの高い期待に応えている。 ・生徒主体の人権教育が行われている。
弱み	・勤務時間縮減のために部活動顧問の副顧問制を進め、一定の改善はみられたが、まだ不十分である。

(3)学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
＜実施回数＞ 2 回	
実施内容	第1回(6/25)は、本年度の学校経営改革方針及び教育活動方針について、校長・各主任等より説明をして、学校教育への理解・協力を得るとともに、高い識見や豊富な経験に基づいた助言をいただいた。 また、第2回(2/14)は、本年度の活動報告を校長・各担当より行い、その後質疑の時間を持った。質疑の内容を踏まえ、次年度へ向けてのいくつかの助言をいただいた。

(4)学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	・グローバル人材の育成のため、社会性・市民性の育成や国際理解教育にさらに力を入れてほしい。 ・生徒を褒めて伸ばす、自信を持たせる取り組みや生徒同士がお互い学び合える仲間づくりを継続して実施してほしい。 ・授業改善アンケートを目指す学校像の達成のために活用してほしい。

(5)組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組	
・文武両道を実践して、社会性・市民性を育成するとともに、学力の向上を目指し、グローバル人材を育成する。 ・ハイパーQ-Uの結果を活用し、生徒同士が学び合う集団づくりを通じて、学力向上を目指す。 ・授業改善アンケートを基に自己評価・改善し、授業力の向上に努める。また、資質向上のためのベンチマーキングや教科研修会、校内研究授業などをさらに充実させる。 ・生徒の学習課題の与え方や量の問題、教科間のバランス調整に取り組み、さらにきめ細かな指導を継続する。 ・少しでも教職員の過重労働の解消になるように取り組む。	